



おのみ

令和 3 年度 3 月号

志布志市立尾野見小学校



君たちは負けていない！～県ちび観戦記～

学校長 宗岡 克英

3月13日（日）に県ちびっ子ソフトボール大会がありました。尾野見ソフトボール少年団の6年生にとっては最後の大会でした。以下、私の観戦記を記します。

8時50分。団旗そして多くののぼり旗がはためく3塁側ベンチ前で、応援に来た方々が選手達を囲み、拍手と歓声で励ます。さすが王者尾野見ソフトボール少年団。試合が始まる前からすでに相手チームを圧倒している。前田監督は試合前のわずかな時間も無駄にせず、試合に勝った時のイメージを思い出すように選手達に語る。

プレイボール。1回表。尾野見チームの攻撃から試合は始まった。相手ピッチャーの投球の様子を見て「ボールは来ていないよ。」と監督がすかさずチーム全員に助言をする。緊張のあまりボールの下を振ってしまう打者たちに「上からボールを見よう。」と声をかける。1回裏。立ち上がりで制球が定まらないピッチャー園田脩斗を落ち着かせるために監督は何度も声をかける。2回表。小玉武蔵はライトフライ、梅本杏琳はレフトフライ、と打球が外野へ飛び始める。

2回裏。川野陽平が取りにくいフライをナイスキャッチする。相手方に流れが行かないように必死に食い止める。脩斗の調子が上がってくる。監督が「脩斗！三振を狙っていけ！」と声をかける。脩斗は渾身の速球を投げ「パシッ」と三振で打ち取る。「よし！」監督の声がグラウンドに響き渡る。

3回表。攻撃に入る選手全員に「できるできる。絶対に点は取れるぞ」と声をかける。長野唯華がジャストミートするが惜しくもファール。「それぞれ！」すかさず監督が声をかける。唯華はそのあと執念のヒットを打ち、出塁する。しかし盗塁が成功せずアウト。でも監督は決して責めず、「ナイスラン！」と声をかける。3回裏。脩斗のピッチングが冴えまくる。監督の「脩斗ここで三振！」の声かけに再びこたえ、見事三振を取る。マウンドから降りて来た脩斗の肩を監督が叩き、労をねぎらう。その光景に思わず胸が熱くなる。

4回表。「ホームランか三振。弱気で行くな！」監督の強い声かけに梅本杏琳が涙ぐむ。監督はその杏琳の目をじっと見て何かを語る。1球目。杏琳がボールに食らいついてチップ。そして2球目にポテンヒットを放つ。意地で勝ち取ったヒットだ。「必死になれ！」次打者の小玉虎次郎



に声をかける。ヒットエンドランが大成功。ランナーを2塁に進める。次打者は陽平。バットが球を捉え、ライナーがセンターに飛ぶが真正面。続く脩斗もジャストミートするがショート真正面。ため息が出る。「とらえているぞ。とらえているぞ。自信をもって！」監督は選手たちを励まし続ける。4回裏。相手チームが内野ゴロで1塁に出塁する。相手の作戦を見抜いた監督はすぐさま内野にバントシフトを指示する。1アウト2塁。次打者がレフト前ヒットを打ち、1点入れられる。しかしその後、脩斗はセカンドフライと三振で後続をピシヤリと断つ。「よし！」監督の声がグラウンドに響き渡る。5回表。点を取られて責任を感じ、涙ぐむ虎次郎に監督が声をかける。そして全員をベンチ前に座らせる。「なぜ点につながらない？」静かに問いかける。「決して慌てるな。そして自分たちの役割をしっかりと果たせ。」と檄を飛ばす。しかし、点はなかなか取れない。5回裏。試合の残りはあと13分。2アウトから杏琳がショートへ強襲ヒットを放つ。そして続く虎次郎もポテンヒットを放つ。2アウト2・3塁。バッターは陽平。ついにチャンスがやって来た。相手側は陽平を敬遠し満塁策をとる。次のバッターは脩斗。迷わず打ったボールは、ショート前に転がる。ショートがボールをファンブルする間に杏琳がホームインし1-1の同点となる。尾野見ベンチは歓喜の渦に。しかし、しかしその直後、塁審が何かを告げ、相手チームは歓声をあげながらベンチに戻っていく。「一体何が起きたのか？」我々には全く理解できない。前田監督が冷静に抗議をする。審判団がマウンドに集まり協議を始める。我が尾野見チームのランナーは全員ベースにとどまったままである。5分ほど協議が続き再度主審が監督に説明をする。相手チームから、守備妨害があったとの主張があったらしい。審判団の判定を前田監督は冷静に受け入れる。説明を聞いた選手達は、その場で泣き崩れる。応援団の我々も呆然と立ち尽くす。

尾野見ソフトボール少年団の選手諸君！君たちは決して負けていない。数年間に渡る練習や試合を通じて、監督やチーム仲間、そして保護者と心をつなげてソフトボールに取り組むことができたのだから。そしてそれは何ものにも代え難い経験としてこれからの君たちの人生を支えてくれるはずだから。

素晴らしい試合を見せてくれて本当にありがとう。